

平成30年度 第1回中央区支え合いのまち推進協議会議事録

【1】開 催

- 1 会 議 名：平成30年度第1回中央区支え合いのまち推進協議会
- 2 日 時：平成30年7月17日（火） 午前10時30分～午後0：00
- 3 場 所：中央保健福祉センター 大会議室（きぼーる11階）
- 4 出 席 者：委員 23人（介助者を除く）
（欠席 5人）
【石原委員、鎗木委員、栗田委員、杉野委員、長嶋委員】
事務局 14人
傍聴人 0人

【2】次 第

- 1 開 会
- 2 区長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 議題
 - （1）委員長・副委員長の選任について
 - （2）幹事会委員の選出について 資料1
 - （3）「中央区支え合いのまち推進計画」の平成29年度推進状況について
資料2 資料3-1 資料3-2
- 5 報告事項
 - （1）「支え合いのまち千葉 推進計画（第4期千葉市地域福祉計画）」策定について
資料4 資料5
- 6 その他 当日配付資料
- 7 閉 会

【3】議事の要旨及び発言要旨

議題（1）委員長・副委員長の選任について

委員長の選任にあたり、中央保健福祉センター 根岸所長が仮議長を務め、委員の互選により、武井委員が委員長に選任された。

その後、武井委員長が議長となり、委員の互選により、高橋委員が副委員長に選任された。

議題（2）幹事会委員の選出について

（原田主査：中央区高齢障害支援課）

資料1を説明。

[意見・質問等なし]

議題（３）「中央区支え合いのまち推進計画」の平成２９年度推進状況について

（原田主査：中央区高齢障害支援課）

資料２、３－１、３－２を説明。

（長谷川委員：中央区町内自治会連絡協議会）

資料３－２に記載されている、地区部会エリアごとの人口と世帯数は、こういった方法で把握したのでしょうか。この資料には、川戸地区部会エリアの世帯数は、３，２６０世帯と記載されています。私が会長を務める、第２１地区（川戸中学校区）町内自治会連絡協議会の各単位自治会には、合わせて約１，７５０世帯が加入しておりますが、３，２６０世帯を総数とすると、約１，５００もの未加入世帯があることになるので、少し気になってお聴きしました。

（関副所長：社会福祉協議会中央区事務所）

人口及び世帯数につきましては、基本的には、千葉市が公表している、町丁別人口及び世帯数を引用しています。ただ、一つの町丁が複数の地区部会のエリアに分かれている場合には、地区部会ごとの人口等は分かりませんので、各地区部会のエリアを担当する、民生児童委員の定数を基に按分し、推計しております。

（長谷川委員：中央区町内自治会連絡協議会）

川戸町は、全て川戸地区部会のエリアですが、仁戸名町と赤井町と緑区平山町は、一部のみ川戸地区部会のエリアとなっており、なかなか人口等を把握しきれていないので、お聴きしました。

（伊藤委員：松ヶ丘地区部会）

松ヶ丘地区も同様ですが、町内自治会未加入の世帯が多くなっているのは明らかです。加入世帯が増えることで、地区部会の財源確保にもつながりますので、中央区町内自治会連絡協議会の皆様には、積極的に未加入世帯への働きかけを行っていただければと思います。

（武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会）

地区部会ごとの人口及び世帯数としては、これ以上正確な数値の把握は難しいということでしょうか。地域振興課では、各町内自治会のエリアをかなり詳細に表示した資料を作成していると思いますが、これを基に算出することはできないでしょうか。

（小倉室長：中央区地域振興課地域づくり支援室）

町内自治会に加入されている方については、名簿がございますので、正確に把握しております。また、町内自治会の区域については、住宅地図に記載して管理しておりますが、町内自治会未加入の地域については、集合住宅もあり、正確な数値の算出は難しいと思います。

（武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会）

重点取組項目については、このようになり細かく記載されていますが、重点取組項目以外の取組みについても、取りまとめを行っているのでしょうか。

（関副所長：社会福祉協議会中央区事務所）

重点取組項目以外の取組みにつきましては、昨年度第４回の本協議会において、重点取組項目とあわせて取りまとめた資料に基づき、説明いたしました。本日配付した資料は、重点取組項目の推進状況について、千葉市社会福祉審議会地域福祉専門分科会に報告するため作成した資料であることから、重点取組項目のみを記載しております。

報告事項（１）支え合いのまち千葉 推進計画（第４期千葉市地域福祉計画）」策定について

（和田課長補佐：地域福祉課）

資料４を説明。

（黒木主査：地域福祉課）

資料５を説明。

（植草委員：公募）

アンケートは、なぜウェブで実施したのでしょうか。

（黒木主査：地域福祉課）

比較的福祉に関心の低い方からのご意見をいただけるメリットがあることや予算等の関係で、ウェブアンケートを実施しており、第３期計画策定時にも、ウェブアンケートの前身制度であるインターネットモニターアンケートにより実施いたしました。

（植草委員：公募）

ウェブアンケートの実施により、比較的福祉に関心の低い方からの意見も吸い上げることができるということでしたが、関心があってもウェブアンケートの存在を知らない方の方が多いように思いますが、そういった方たちの意見は、どのように拾い上げるのでしょうか。

（黒木主査：地域福祉課）

地域福祉計画につきましては、市民説明会、パブリックコメント手続、区支え合いのまち推進協議会等を通じて、地域の皆様のご意見をうかがいながら策定しているところですが、市民説明会を開催しても、なかなか多くの皆様にはご参加いただけない状況がございます。関心のある方々への働きかけの手法につきましては、私どもも課題の一つと捉えており、改善策を検討してまいりたいと考えておりますので、ご提案等ございましたら、頂戴できればと存じます。

（植草委員：公募）

パブリックコメント手続等の実施に関する広報は、どのように行っているのでしょうか。

（黒木主査：地域福祉課）

市民説明会の開催やパブリックコメント手続の実施につきましては、市政だよりや市ホームページを通じて広報するとともに、記者発表を行っております。またあわせて、各区高齢障害支援課の窓口において、案内文を配布するなどして、広報に努めております。

（植草委員：公募）

それ以外の方法があれば教えてください。

（黒木主査：地域福祉課）

市民説明会の開催につきましては、民生委員児童委員協議会や町内自治会連絡協議会等の皆様にも、関係会議の場をお借りして、参加や周知についてお願いしたところです。

（植草委員：公募）

パブリックコメント手続の実施については、市政だよりによる広報以外に、市民一人一人に広報するような方法はとられていないということですか。それとも、民生児童委員や町内自治会を通じて各個人に周知されているのでしょうか。

(黒木主査：地域福祉課)

出来得る限りのご周知は、行っているという認識しております。

(植草委員：公募)

私自身が、そういった情報をあまり耳にしないので、今後、広報の方法を工夫していただきたいと思います。また、今はテレビでも、ウェブ等による募集が増えていますけれども、そういった方法に対応できない方達もたくさんいると思いますので、意見を上げたくても上げられないといったことのないよう、意見募集の方法も工夫していただきたいと思います。例えば、市政だよりにアンケート用紙を添付して配布し、意見を記載して返送してもらうといったような、様々な方が参加できる方法により意見を募集することで、本当にこの計画による取組みを必要としている方から、意見をいただけるようになるのではないかと思います。

また、以前にも意見を上げたことがありますが、計画書の表現について、できるだけ専門用語を易しい言葉に置き換えて、どんな年齢、どんな立場の方が読んでも、理解できるものに変えていったら良いのではないかと思います。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

ウェブアンケートについて、福祉に関心の低い方からの回答が多いという認識なのでしょうか。そうだとしたら、全体像というのはどのように把握しているのでしょうか。

(黒木主査：地域福祉課)

ウェブアンケートの対象者は500名から600名で、性別、年齢を問わず、まんべんなくご回答いただいておりますので、ある程度、一般的な傾向が読み取れるのではないかと考えております。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

先ほどの回答の中で、ウェブアンケートの結果は、地域全体の意見というよりは、特定の方々からの意見と捉えているようにもとれましたが、そういう意味ではないということですね。

(黒木主査：地域福祉課)

ご指摘のとおりです。

(伊藤委員：松ヶ丘地区部会)

地区部会にかかる負担が非常に大きくなっています。こういった会議に、地区部会以外の皆様にもできるだけ多くご参加いただき、そういう現状を認識していただいた上で、少しでも良い方向に進めていければと思います。

(長谷川委員：中央区町内自治会連絡協議会)

第3期計画と第4期計画の違いは、どんなところでしょうか。

(黒木主査：地域福祉課)

第3期計画策定時に大幅に変更したことから、第4期計画については、ご覧になる方の使い勝手を良くするための、細かい部分の変更のみ行っております。

(宍倉委員：蘇我地区部会)

今年度から増員された生活支援コーディネーターの活動実態は把握しているのでしょうか。地域によって差はあると思いますが、私どもの地域の担当者は、かなり活発に活動していて感心しております。現任担当者の負担が大きい地域への増員等について、検討は行われているのでしょうか。

(根岸所長：中央保健福祉センター)

生活支援コーディネーターは、地域包括ケア推進課が所管しており、その活動実態に関する報告は未だなく、把握しておりません。ただ、今年度から、中央区のみですが、あんしんケアセンターの圏域ごとに生活支援コーディネーターを設置することとなりましたので、地域福祉の推進に向けて、積極的にかかわっていきたいと考えております。年度末には、何らかの報告ができるかと思っております。

(宍倉委員：蘇我地区部会)

増員されて間もないので、実態はつかめていないと思いますが、生活支援の需要は大きくなっていますので、早めに把握していただきたいと思っております。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

現状では、まだ2圏域で生活支援コーディネーターが設置されていないと思いますが、今年度中に設置されるということでしょうか。

(根岸所長：中央保健福祉センター)

今年度中に全圏域で設置することを目標としております。

その他

(根岸所長：中央区高齢障害支援課)

推進協の運営方法につきまして、幹事会等において、より活発な意見交換を行うためには、より小さな単位で会議を開催し、ご議論いただくのが望ましいのではないかと意見をいただきました。そうしたことから、計画策定年次以外の年度は、本日のような全体会議は、年度初めと年度末の年2回の開催とし、その間に、分科会というかたちで、会議を開催したいと考えております。地域性を考慮して、あんしんケアセンターの圏域を基本とした3つのグループに委員の皆様を分け、喫緊の課題となっております、地域での助け合い活動の推進をテーマに、意見交換していただきたいと考えております。当日配付資料として、「支え合い活動推進のための検討分科会構成案」をお配りしておりますので、ご意見を頂戴できればと存じます。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

「支え合い活動推進のための検討分科会構成案」では、支え合い活動を実施している地区部会は、3つのグループを合わせて8地区部会と記載されていますが、資料3-1の「9 人材確保とボランティア活動の促進」には、実施地区は7地区と記載されています。どの地区が増えているのでしょうか。

(関副所長：社会福祉協議会中央区事務所)

「支え合い活動推進のための検討分科会構成案」において、Bグループの実施地区に西千葉地区部会を記載しておりますが、同地区部会は、地区部会としてのお取り組みではなく、老人クラブの方々が、助け合い活動を行っているということでしたので、資料3-1の「9 人材確保とボランティア活動の促進」では、実施地区に含めなかったことによる相違です。

(植草委員：公募)

課題は、どのグループでも同じなのでしょうか。

(根岸所長：中央区高齢障害支援課)

全てのグループで同じ課題です。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

支え合い活動推進のための検討分科会ということですが、ここでいう支え合い活動とは、支え合いのまち推進計画の具体的な取組み「②支え合い活動の仕組みづくり」だけを指すのか、それとも、計画全体を指すのでしょうか。

(根岸所長：中央区高齢障害支援課)

現在、7地区において、ごみ出しのお手伝い、電球の交換といった支え合い活動が実施されていますが、今計画期間中に、全地区で実施していただくために、どういったことが課題で、どのように改善されれば実施できるかといったことを分科会で議論していただければと考えております。

(伊藤委員：松ヶ丘地区部会)

開催日程は決まっていますか。

(根岸所長：中央区高齢障害支援課)

あらためて調整したいと考えております。

(植草委員：公募)

分科会の構成案を見ると、比較的近い地域の方が同じグループに入っています。各地域における取組みの推進状況を見ると、地域性がかなり出ていると思いますので、近い地域の方が集まると、取組みの推進状況も同じようになって、議論に偏りが出るのはないかと懸念します。

それから、全体会議を年2回の開催とすると、分科会の結果を年度末に開催する全体会議に報告して、それを活かすのは次年度ということになってしまうのではないのでしょうか。

(根岸所長：中央区高齢障害支援課)

ある程度同じような特性をもつ地域の皆様で話し合っていただくため、あんしんケアセンターの圏域を基本としてグループ分けいたしました。

また、本協議会は、基本的には、各地域における自主的な取組みについて、情報交換し共有することを目的としておりますので、分科会で得た情報等については、必ずしも全体会議における協議結果を待たずとも、各地域に持ち帰っていただき、その取組みの推進に活かしていただければと考えております。

(植草委員：公募)

私の地域では、実施されている取組みはどんどん進んでいますが、実施されていない取組みは、なかなか手をつけられないという状況で、当事者である住民にとっては、実施されていない取組みこそが必要であるという場合もあります。あんしんケアセンターの圏域を基本としたグループ分けですと、そういった偏りが解消されないのではないかと思います。

また、自主的な取組みということ言えば、資料3-1に記載されているとおり、各取組みの推進状況の評価は、ほとんどSとAですが、これは、各地域が手をつけやすい取組みを重点取組項目としていることが、評価に表れているのではないかと思います。これを改善しないままですと、私の地域でいえば、白旗台地区部会では実施されている、災害時に支援を必要とする人の避難支援の取組みが、大変必要とされているにもかかわらず、実施できないのではないかと不安になります。

(根岸所長：中央区高齢障害支援課)

地域によって特性やマンパワーが違いますので、事務局が個別のニーズを拾い上げるのは困難であることから、重点取組項目の選定を含め、自主的な取組みという位置づけとしておりますが、ご指摘いただいた点につきましても、今後、研究していきたいと思っております。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

今年度については、事務局案のとおり行うこととし、本日いただいた意見については、必要に応じて、次年度以降の実施に向けた検討材料とすることとします。

分科会の開催日程の候補日は決まっていますか。

(大塚課長補佐：中央区高齢障害支援課)

開催方法の詳細を決定した上で、個別にご連絡いたします。

(宍倉委員：蘇我地区部会)

蘇我地区部会では、蘇我地区地域ケア会議の参加者を中心として、あんしんケアセンターと連携し、10月5日に、3回目となる認知症徘徊者声かけ模擬訓練を実施する予定です。来週の25日に、第1回目の実行委員会を開催し、こういった内容とするか検討する予定です。昨年同様、関係各位の皆様にはご協力をお願いしたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

以上